

第 1 回ワーキング・グループの議論のまとめ（案）

2016 年 1 月 18 日

主査 伊藤 健

第 1 回WGで検討を予定していた論点に対する成果として、WGでの議論や各委員から事前に提出いただいたご意見を踏まえ、以下のとおり整理してはどうか。

1. 社会的インパクト評価が求められる背景

- ・ 2008 年の金融危機をきっかけに、資金の出し手となる慈善団体や投資家、財政制約が強まる行政において、これまで以上に成果を求める動きが国際的な流れとなっており、事業の社会的成果を把握するための共通的なインフラとして社会的インパクト評価へのニーズが高まっていること。
- ・ また、企業報告においても GRI (Global Reporting Initiative) のように企業の社会性を企業価値として捉え直し、発信しようとする非財務情報開示の流れがあること。
- ・ 日本においても、少子高齢化が進行し、公的リソースの逼迫が想定される現状において、社会的生産性を最大化するために、社会的インパクト評価への関心が高まっていること。

2. 社会的インパクト評価の現状

○社会的インパクト評価の効果・意義

- ・ 評価には「監査」といったイメージが付きまとうが、評価は価値を引き出すことであり、社会的インパクト評価を実施することにより支援者や資金などの組織のリソースが高まり、組織の成長につながるもの。

(1) 事業実施者にとっての効果・意義

- ・ 社会的効果のアピールが可能となる
- ・ 組織マネジメントの向上に資する
- ・ 事業実施主体の活動の質の向上に資する
- ・ 更なる資金を呼び込むことができる
- ・ 評価を通じて資金の出し手などとのコミュニケーションが高まる

(2) 資金仲介者にとっての効果・意義

- ・ 支援先のクオリティを判断の上、投資の意思決定ができる
- ・ 投資先のパフォーマンスのモニタリングが可能となる
- ・ 投資家に対し、資金投入の有効性に関する説明が可能となる
- ・ 評価を通じて寄附の出し手などとのコミュニケーションが高まる

(3) 資金提供者にとっての効果・意義

- ・ 支援先のクオリティを判断の上、投資の意思決定ができる
- ・ 投資先のパフォーマンスのモニタリングが可能となる
- ・ 評価を通じて事業実施者とのコミュニケーションが高まる

- 他方、第1回WGの論点のうち、①社会的インパクト評価の定義・領域、②社会的インパクト評価の目的については、第2回WGで改めて議論することとしてはどうか。

以上